

令和三年度 卒業証書授与式 学校長式辞

先々週まで降っていた雪は穏やかな雨に変わり、早田川の桜の木の枝には、既に小さなつぼみがついています。暖かい春の兆しを感じられる今日のこの良き日に、本校PTA会長 西川光美 様、同窓会長 中村 源次郎 様をはじめ、ご来賓の皆様方、そして保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和三年度岐阜県立岐阜北高等学校の卒業証書授与式を挙行できましたことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました三五八名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の入学式、満開の桜の中、真新しい制服に身を包み、期待と不安に胸を膨らませながら、本校での生活の第一歩を踏み出しました。高校での学習の質と量に戸惑いながらも、勉学に、部活動に、また様々な活動に積極的に挑戦してくれました。

特に昨年から今年にかけては、本校が創立八十周年の節目を迎えた記念すべき年でしたが、新型コロナウイルスの世界的な大流行により、文化祭や体育大会、その他様々な学校行事が、延期に次ぐ延期となり、授業さえもできないという、これまで経験したことのない異常事態となりました。先の見えない不安が続く中で、出来ることを模索しながら、様々な方法を工夫し、最後まであきらめずに挑戦した皆さんの姿に、我々教員が励まされました。皆さんに背中を押されるように、我々も限られた状況の中で、最善の教育の機会を提供できるように何度も何度も教育計画を練り直してきました。我々教員と生徒が一緒になって成長してきたと感じています。

逆境が生物を進化させると言います。学校では、共通テストの導入など大学入試改革と同時に探究的な学びや教育のICT化が一気に進みました。世界に目を向けると、ネット社会やAIの進化が加速し、経済のグローバル化とともに社会や産業の構造も大きく変化しています。ロシアや中国の予断を許さない動きなど、世界の情勢も大きく変化しています。こういう時代にあって、私たちは既存の価値観にとらわれることなく、物事の本質を見極めながら、より良い社会の実現と自己の幸せを追求していく必要があります。

昨年度から制服の見直しの議論があり、マスコミにも取り上げられましたが、これまで当たり前であった既存の価値観をゼロベースから議論するという点で、重要な意味がありました。ある事柄の意義や目的を様々な角度から分析、検証し、最適解を求めていく、まさに探究的な学びの実践です。

皆さんは将来、社会の中で様々な未知の課題にぶつかり、それを自らの力で、あるいは仲間と協働して解決しなければなりません。そういう挑戦と課題解決の連続が、皆さんを成長させ、持続可能な社会の担い手として必要不可欠な存在になっていきます。そして、皆さんには、決められた法やルールを守るだけでなく、より良い社会をつくり、また仲間や愛する人を守るために、自ら法やルールをつくる立場になることを期待しています。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。今着ている制服は、もう二度と着ることはありません。皆さんが入学した時、初めて袖を通した時の高揚感、そして決意を思い出して下さい。北高の制服は、まだ何者でもなかった皆さんを、精神や肉体の未熟な人も、国籍も宗教も関係なく、「北高生」として受け入れ、皆さんに誇りやプライドを与えてくれました。しかし、高校の三年間は決して平坦なものではなく、心身が成長する過程の中で、苦

しみや悩み、挫折や葛藤の中で、時に自分を見失うような時があったかも知れません。そのような時も制服は、「賢く品性ある北高生」として皆さんを包んでくれました。

本日配布された岐阜北高新聞に「蛹の殻の役割」について書きました。昆虫が完全変態をする過程において、蛹の中では、幼虫の体の組織が一度分解され、どろどろのスープのような状態から、成虫の体が再構築されていく話です。その間のとても危険な時期を蛹の殻が守っているのです。

皆さんが、三年生になり、だんだん制服が窮屈になってきたのは成長の証です。蛹の内部で本体が十分に成長し、もう「北高生」であるということに頼ることなく、自分自身の姿で羽ばたく準備ができています。勿論、羽化すると同時に多くの危険にさらされます。しかし、その新たな試練を乗り越え、自分の進むべき道を見つけ、家族を得て子孫を残すのです。

脱ぎ捨てられた制服は抜け殻と同じで顧みられることはありません。しかし三年間でついた傷や汚れ一つ一つが、皆さんを様々なことから守ってくれた証だと思ってください。

最後に、ご臨席賜りました保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

子どもたちはこの三年間、様々な経験を積み、失敗や成功を繰り返しながら学んできました。その姿を見守り、嬉しい時には共に喜び、苦しんでいる時には励まし、時にはお子さんのために涙を流されたことと思います。陰に日にお子様の成長を支えてくださったご家族の皆様の深い愛情と絆に敬意を表しますとともに、本校の教育に対し、ご理解とご支援を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

そして、中村同窓会長をはじめ、二万八千余名の同窓生の皆様方には、本校の生徒を我が子のように温かく見守り、応援をいただいていることに感謝を申し上げます。今年度卒業する皆さんが、今度は同窓会の一員として、後輩を応援するという良い循環が、伝統として連綿と続いている学校であることを誇りに思います。

全ての関係の皆様方に、学校を代表して感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんの新しい門出を祝し、ご活躍とご多幸を、今一度、心より祈念申し上げまして式辞とさせていただきます。

令和 四年 三月 一日

岐阜県立岐阜北高等学校
校長 鈴木 健